

プレスリリース

2011年4月25日
株式会社コモテック
代表取締役 小森正憲

小型建機専用の黒煙除去装置を開発

弊社はこのたび、19kW以下(エンジン排気量1000cc未満)のディーゼルエンジンを搭載した小型建設機械専用に、家庭用100V電源を使用する外部電源式黒煙除去装置(以下DPFと称する)を開発しました。100Vのヒータでは十分な発熱量が得られないためフィルタに溜まったススを燃焼させることは非常に難しく、いままで商品化された例はありません。200V電源でススを燃焼させる「モコビーCT」の技術を活かし、フィルタ形状、ヒータ構造、遮熱構造、温度制御技術組み合わせ、家庭用電源でもススを燃焼できる小型DPF「モコビーミニCTM」の開発に成功しました。フィルタが汚れたら家庭用100V電源につないで簡単に清掃でき、繰り返し何度でも使用できるので非常に便利で経済的です。今後小型建設機械に使用して性能評価テストを行い、実用化の目処を立て、今年度中に販売することを目指しています。

2012年から始まる日米欧のノンロードディーゼルエンジンの排ガス規制の対象となる19kW以上の建機には、排ガス規制に対応するためのDPFの装着が必須となっており、エンジンメーカーは種々の方式のDPFを開発し、生産準備中です。ところが19kW以下の小型建機は排ガス規制の対象となっていないため、このクラスのDPFが開発される予定はありませんでした。新型の建設機械が登場する建設現場では、19kW以上は黒煙を排出しませんが、19kW以下の新型の小型建設機械では、黒煙を排出するというケースが発生します。弊社はこの点に着目しており、19kW以下の小型建設機械にもDPF搭載のニーズがあると考えています。

現在弊社では、建設現場のクローラクレーン、バックホー、発電機などに「モコビーCT」(エンジン排気量5000ccまで使用可能)を多数レンタルしています。この中で19kW以下のエンジンを使用する小型発電機、ミニショベル、高所作業車、タイヤローラなどへのレンタル需要も多くあります。しかし装置が大きくスペース上搭載できない場合もあり、また小型建機のレンタル料に比較して割高になるため、コストダウンを強く要望されていました。19kW以下の小型建機専用のDPFは新しい市場になりますが、エンジンメーカーや建設機械メーカー、レンタル会社に小型建設機械専用のDPFとして積極的にPRしていきたいと考えています。本品は、2011年5月24～27日東京ビッグサイトで開催されますNEW環境展2011に出展いたします。

